

---

領域名：老年保健看護

報告者：兼島利奈

---

教育及び実践の課題

---

老年保健看護では、「老い」を迫体験できないケア提供者が高齢者のケアにあたる。そのため、ケア提供者は、世代差を考慮しながら状況を理解し、高齢者のニーズを想像する力が求められる。講義や演習では、さまざまな生活背景に根差した高齢者のニーズとそれに応じたケアを示している。しかし実習では、治療期には疾病と治療の苦痛が混在し、在宅療養期には生活の楽しさや希望が見えにくいなど、生活背景だけでは捉えきれない複雑なニーズが存在することを学生は目の当たりにする。このことから、教員自身も老いを迫体験できない立場から、学生が想像力を働かせて高齢者のニーズを捉えられるよう、想像を補佐する教育的支援が求められる。

---

活用した論文の概要

---

Janani ら (2023) は、65 歳以上の血管外科患者 47 名と介護者 9 名を対象に、入院中の病院ケアの体験を混合研究で調査した。患者・介護者ともに、自身の意見が尊重され、十分な情報提供を受け、痛みへの対応もなされていたと評価した。また、臨床治療に加えて、清潔や食事など日常生活の基盤を守ること、納得できる説明や意思決定への参加を保障すること、回復を見据えた支援が重視されていた。これらは、患者が大切にしていたことや求めていたことに即したものであり、単なる医療処置にとどまらず、安心や尊厳を支えられたと実感できる体験としてケアが認識されていた。

---

教育及び実践への活用

---

活用した論文の知見では、納得できる説明や意思決定への参加を保障することが高齢者のケア体験を支える要素であることが示されていた。また研究活動からは、学生が実習の場で、療養の場では安楽や疼痛の軽減を図りつつ日常生活の基盤を守ること、在宅療養の場では意思決定への参加を保障することがフェルトニーズの表出につながることを体験していたことが明らかになった。

これらの知見をふまえ、講義では特に意思決定への参加を強調し、患者が自らの療養を主体的に選択できるよう支援する重要性を具体的な事例を通して示した。実習指導では、場ごとに異なるニーズを予測できるよう、患者の反応や発言の意味を手掛かりに高齢者のニーズを想像する力を補佐する視点を取り入れた。さらに、このプロセスを通じて学生が対象の状況をより深く理解し、世代差を超えて個別性に応じた支援を構想できるようになることを意図した。

---

参考文献

---

Janani T, Helen B, Leanne K, et al. (2023). The experience of hospital care for older surgical patients and their carers: A mixed-methods study. *Australasian Journal on Ageing*. Sep;42(3):535-544.

---